

ようこそ！！羅臼へ！！

平成29年度の異動で羅臼町に15名の新しい先生方が赴任してきました。1名は同一校での異動です。

3日に公民館に於いて、小中学校教員の辞令交付式が行われ、教育長より各自へ北海道教育委員会からの辞令が渡されました。

交付後、教育長からは、「早く地域となじみ、地域を理解し子供たちの教育活動に当たってほしい」との式辞がありました。引き続き、相澤羅臼校長会会長より、「新中学校の建設に関わって、貴重な経験をする事になる。また、豊かな自然環境を活用した教育活動を実践してほしい。」と激励の言葉がありました。

転入者を代表して、小川春松小学校校長より、「持続可能な羅臼の活力ある未来に向けて、いきいきと逞しく行動する心豊かな児童生徒の育成を目指し、日々の教育活動に邁進します。」との答礼がありました。

その後、教育指導主幹より羅臼町の教育の概要について説明があり、来られた先生方のこれからの実践に期待して終了しました。

校長	春松小学校 春松中学校	小川 谷村	一 靖志
教頭	羅臼小学校 羅臼中学校 春松中学校	高橋 菅原 古賀	健司 晋利 勝利
教諭	羅臼小学校 春松小学校	伊澤 阿部 岩井 住野	亮介 之好 美洋 美彩
	羅臼中学校 春松中学校	沼崎 渡邊 鈴木 白石 金子 佐藤	良介 晋市 みなみ 志美 しおり



羅臼高等学校	校長	升田	重樹
	教諭	大宮 藤野	晃希 一輝
	事務	斎藤	友輝

羅臼町幼小中高教育 診断編

幼稚園・小学校・中学校・高校の平成28年度の取り組み

平成28年度 羅臼幼稚園の教育 <診断編>

教育要領に基づき、将来良き社会人としての素地を養い、豊かな感性や自立心を育成し、幼児一人ひとりの望ましい成長を促し、豊かな人間性やたくましさの育成など「生きる力」の基礎を培う教育の実施・改善

- 1、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼稚園教育という観点で幼小の円滑な接続を推進しています。
 - ・幼稚園と小学校との交流活動を一層深化させ、互恵性のある円滑な接続を推進する。
 - ・家庭や地域社会、自然とのかかわりを通して、園児が共に育ち合う体験活動の充実
 - ・数の概念や言葉の概念について、充実した広がりのある活動を推進
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動と歯磨き指導を推進
- 2、5歳児の三学期の保育時間延長（午後保育）の実施
幼稚園生活3年間のまとめと小学校への円滑な接続のための時間とする

3、羅臼小学校との交流活動

- ・5月 1年生と年長組による対面式
- ・7月 「なかよしタイム」で遊ぼう
- ・8月 夏休みの児童作品展見学
- ・11月 2年生と「焼きイモ」交流
- ・12月 5年生総合学習授業と交流
- ・3月 授業見学



4、正しい言葉遣いと語彙集を増やす取り組み

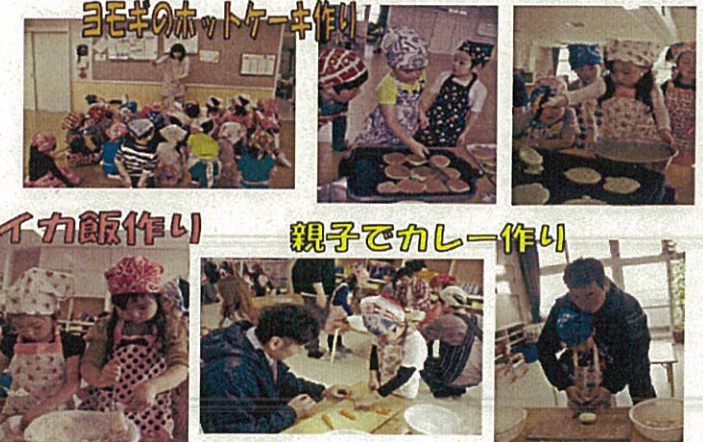
- 読み聞かせと親子読書のすすめを～読み聞かせの効果、それは大人との信頼関係の構築「お母さん読み聞かせ」の実践。
- ・PTA文化部のお母さんをお願いして、交替で園児に絵本や紙芝居の読み聞かせ
 - ・お母さんの読み聞かせ 各学級 年間15回（各学級月1回）

5、食べることが喜びにつながる食指導を… 食の乱れが健康に及ぼす影響と食育の重要性

「食べる」ということを通して、先生と子ども、子ども同士のつながりを深め、生活を豊かにすることを視野にいれ、正しい食習慣を身につけ将来にわたって豊かで健康な生活の基礎を身につける援助しています。

食育のめあて

- ・お腹がすくリズムのもてる子ども。
- ・食べたいもの、好きなものが増える子ども。
- ・一緒に食べたい人がいる子ども。
- ・食事づくり、準備にかかわる子ども。
- ・食べ物を話題にする子ども。



羅臼町立春松幼稚園
3学期 診断編

今年度の重点 3 家庭・学校・地域とたしかにつながる。

○小学校との連携で、遊びから学びの円滑な接続を図る。

取組みとして

- ①冬の自然にふれ存分に遊びに打ち込む姿から、地域に根ざす子ども像が伺えた。
- ②小学2年生と年中組交流、小学5年生と年長組交流(4回) 全学年と年長組交流と活動経験を重なることで緊張がやわらぎ、学校の雰囲気を知ることができスムーズな移行に繋がった。
- ③アプローチカリキュラムに基づいた年長組「午後保育」の取組は、小学校への憧れや意欲に繋がり、学校生活に向けての生活リズムを知ることができた。

実践内容



【① 羅臼の自然を思い切り体験】



【②小学校2年生との交流 年中組】



【②小学校5年生との交流 年中組】



【③午後保育 ブライアン先生と】

たしかなつながりに向けて今後も
家庭・地域・学校の連携を丁寧に進めていく

平成28年度 羅臼小学校の教育 【診断編】

学校の教育目標

激しい時代の変化に適応できる人間性豊かな児童の育成を目指し、知床の豊かな自然のふとこで、人・自然・まちと触れ合いながら、故郷を愛し、自他のよさを認め合い、個性を磨き、「心豊かにたくましく生きる子ども」を育てる。

今年度の重点

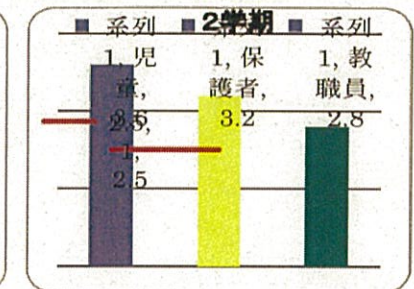
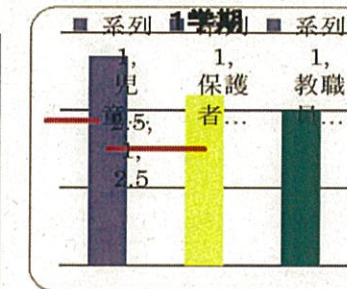
豊かな学びを創り楽しむ子どもを育てるために「基礎基本の定着」と「学び方を学ぶ」
本年度のテーマ「結束」

学校評価から

- 1 【児童】先生は、「知りたい」「やってみたい」と思うような楽しい授業をしてくれる。
【保護者】学校では、子どもの興味や意欲を高めるような楽しい授業を工夫している。
【教職員】私は、子どもの意欲を高めるような楽しい授業を行っている。

(数字=%) A・B合わせて8割を越えているものに

2学期	A	B	C	D	E
児童	72	19	8	1	0
	91%		9%		0%
保護者	33	52	11	1	3
	85%		12%		3%
教職員	8	69	23	0	0
	77%		23%		0%



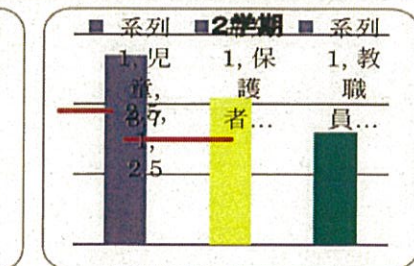
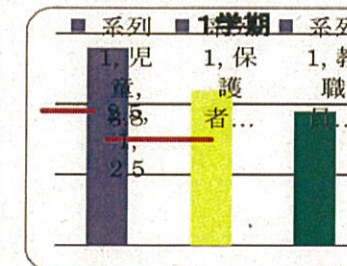
○授業が楽しいと感じている児童は91%と高い割合を示してはいますが、1学期と比べると4%下がっており、その分Cが4%増えていいです。

◎授業が楽しいと思えることは、学校運営の根幹であると考えます。Cへ移動してしまった児童に確実に目を向け、楽しいと思えない理由を明らかにして、充実感が増すよう工夫していきます。

- 2 【児童】先生は、勉強がよくわかるようにおしえてくれる。
【保護者】学校では、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。
【教職員】私は、基礎・基本の定着を図るための指導方法、形態を工夫し、成果が上がっている。

(数字=%) A・B合わせて8割を越えているものに

2学期	A	B	C	D	E
児童	76	22	2	0	0
	98%		2%		0%
保護者	26	60	11	1	2
	86%		12%		2%
教職員	10	45	45	0	0
	55%		45%		0%



○「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせ、児童は98%がわかる授業ととらえています。

◎児童では2%、保護者では12%が理解が十分にできていないと判断されています。教職員は、子ども同士がかかわり合い、わかりやすい授業に心がけていきます。

平成28年度 春松小学校の教育【診断編】

学校の教育目標

郷土の発展に役立つ実践力のある社会人となるために、勤労を尊び、仲良く助け合い、豊かな情操と高い知性を持ち、何事もやり抜く心身ともに健康な子供を育てる。

今年度の重点目標

豊かなかかわりを通して、子供一人一人の自己肯定感を高める

元気な子

『自らつくる力』の育成

◎心身の健やかな成長を促す健康・安全教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

評価項目(要約表現)	1学期	2学期	前2学期
1 仲良く遊べる	4.5	4.2	4.2
3 挨拶ができる	3.8	4.0	4.0
4 進んで体力作りに励む	3.3	3.5	3.8
9 基本的生活習慣の指導	4.6	4.2	4.2
11 安全な環境作り(含いじめ問題)	4.3	4.1	3.8

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- ① 「挨拶・返事・気持ちのよい言葉遣い」の意識化
- ② 生活規律や学習規律を身に付けさせる指導の徹底・継続
- ③ 安全・安心な学びの環境の整備
- ④ 体育活動の日常化

考える子

『自ら学ぶ力』の育成

◎学習意欲の向上と確かな学力を定着させる教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

評価項目(要約表現)	1学期	2学期	前2学期
5 粘り強く取り組む指導	3.3	3.3	3.6
6 進んで学習する指導	3.8	3.8	3.7
7 わかりやすい授業の工夫	4.7	4.1	4.1
☆児童評価	4.4	4.7	4.4
8 基本的学習習慣の指導	4.6	4.2	4.5
16 TTによる基礎学力の向上	4.1		4.1
☆児童評価	4.7	4.6	4.4

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- ① 当該学年の学習内容の確実な定着
 - 積み残しをしない指導の徹底
 - OTTによる個に応じた指導の充実 等
- ② 思考力、記述力の向上
 - 子供の思考を支える板書
 - 読書活動の推進による語彙・表現方法の獲得 等
- ③ 家庭学習の取組内容の充実

やさしい子

『自らかかわる力』の育成

◎人権尊重の精神を基盤とした共生の心を醸成する教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

評価項目(要約表現)	1学期	2学期	前2学期
2 人に優しくできる	3.7	3.9	4.2
10 相談できる環境作り	3.8	4.3	4.2
☆児童評価	4.1	3.9	3.9

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- ① 学級経営の改善・充実
 - 朝や休み時間の過ごし方の工夫改善 等
- ② 道徳教育の充実
- ③ 心を耕す読書活動の推進
- ④ 職員個々の危機管理意識の高揚

平成28年度

羅臼町立羅臼中学校

《診断編》



よりよい羅臼中学校を目指して

全国学力学習状況調査・生徒質問紙から

【全国平均と比べて好ましい傾向】

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- 物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある。
- 先生は自分の良いところを認めてくれている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。

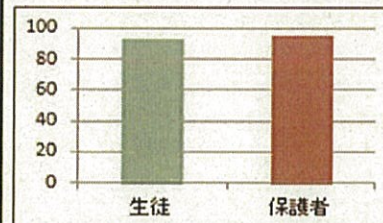


【全国平均と比べて好ましくない傾向】

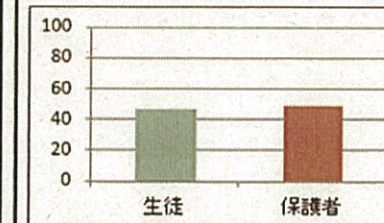
- 平日(月～金)ゲームに使う時間が長い。
- 「読書が好き」と答えた人が少ない。
- 平日(月～金)携帯電話やスマートフォンで通話やメール、ネットを利用する時間が長い。
- 平日(月～金)学校の授業以外に勉強する時間が少ない。
- 「学んでいることが将来役に立つ」「勉強は大切だ」という意識が低い。

学校評価から

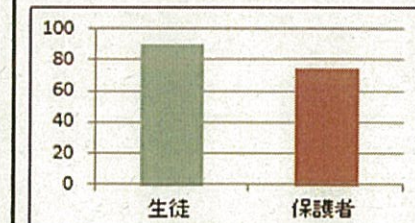
① 楽しく学校生活を送っている



④ 家庭学習の習慣は身に付いているか



⑤ 基本的な生活習慣は身に付いているか



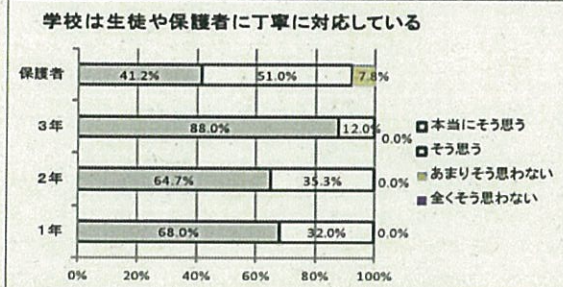
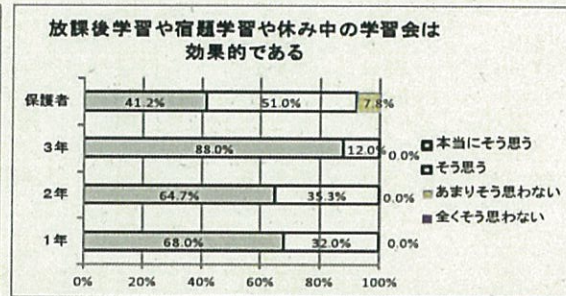
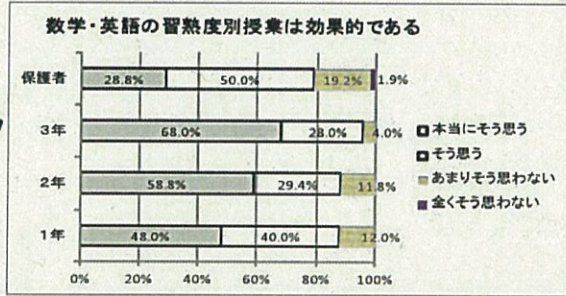
本校の生徒の特徴は、校内だけでなく地域の人へも「挨拶」ができ、各行事などに積極的に取り組み、学校生活を楽しく送るために一人一人が努力しているところである。課題は、将来の自分を見つめることができず、現状の苦しいこと、嫌な事から逃げる傾向がある。家庭学習時間の少なさもその1つの現れである。

【課題解決に向けた方策】

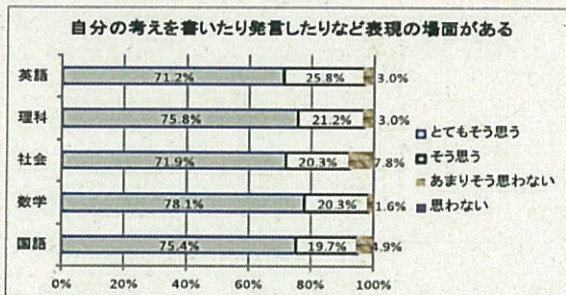
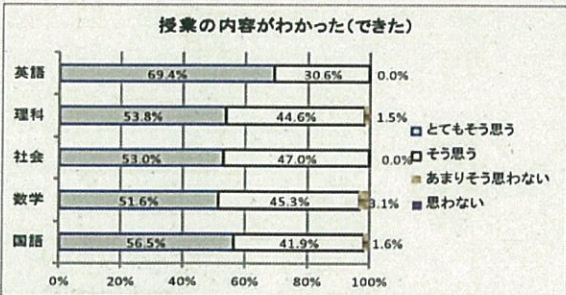
基礎学力を身に付けさせ、自ら学ぶ力を養い、現状の課題を解決する力を育てるとともに、今の学習が「将来どんな役に立つのか」を考え、地域の人材や地域行事を活用して職業観を持たるとともに将来の夢や希望を現実にするための努力する基礎作りを行う。

主体的に時代・ふるさとを拓く 心情豊かでたくましく生きる生徒の育成

学校評価アンケート



授業評価アンケート



毎年4月に行われている全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果、この2年間、全国平均に比べて
 ○ものごとを最後までやり遂げ、うれしかったことがある生徒が多い
 ○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している生徒が多い
 ○自分には良いところがあると思っている生徒が多い
 ○人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多い
 という結果になっています

<校訓>

知床の自然の如く
厳しく美しく
羅臼岳の如く
悠然と

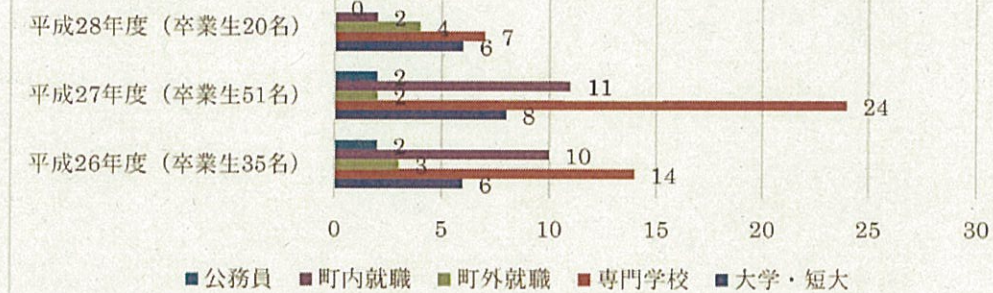
知床の自然の厳しさのように、
常に自分を厳しく律し、
反省を忘れず、
自分を成長させていこう



<校章> 尾白鷺が大空を飛んでいる姿を現して



過去3年進路状況



羅臼高校の進路状況3カ年分です。傾向として大学・短大に進学する割合が増えています。(17→16→30%) これは進路を意識し早期に対策をとっている生徒が増えている傾向にあります。また本校教員の週末課題や放課後講習など少人数の手厚い指導の成果だと感じております。1学年は基礎学力の徹底、2・3年生は模試の振り返りを講習にいかし、しっかりとした復習の機会を設けています。

今後懸念されることは町内就職をしたい生徒が羅臼町内に残れるかどうかです。昨年7月に町内の企業様のご協力のもと、合同説明会を行いました。こちらからの情報発信を今後も行いたいと考えております。各企業の方々との積極的な結びつきを今後も展開したいと考えております。

内部評価(教員)ワースト2

- ▲時間外勤務について適切に対応し、業務の平準化や効率化が図られているか。
 - ▲学習指導計画と教科シラバスにおいて、検証サイクルにて改善がなされているか。
- ※今後勤務時間の縮減を促す方策と計画だけに終わらない振り返り(リフレクション)を大切にしたい。

外部評価(保護者)ワースト3

- ▲ボランティア活動が十分に行われていると思いますか。
 - ▲中学校と連携しながら言葉遣い、挨拶、礼法など十分に行われていると思いますか。
 - ▲自主的学習態度を確立できるよう指導していますが十分に行われていると思いますか。
- ※日常の挨拶指導や基礎学習の定着に努めるとともに自発的取り組みを促す取り組みを増やしていきたい。